

第5回 武蔵野市中学校給食検討委員会 議事要録

- 日 時：平成18年12月14日 午後6時30分～8時40分
- 会 場：武蔵野総合体育館 視聴覚室
- 出席委員：佐々木委員長、原副委員長、伊藤委員、大久保委員、尾関委員、下山委員、高木委員、賞雅委員、田島委員、中野委員、長野委員、松野委員、三浦委員、森委員、屋部委員
- 事務局：山上教育長、金子教育部長、竹内教育企画課長、平岡給食課長、小山、坂井
- 傍聴人：7人

開会

(第4回検討委員会議事要録の確認)

報告事項(事務局)

共同調理場の耐震診断の結果について

東京都健康づくり優秀共同調理場の表彰受賞について

議題1 中学校給食の検討について

中学校における給食実施上の課題

学校における食に関する指導と、給食実施にともなう学校への影響について委員が説明

【委員】 給食の時間に望ましい食習慣の形成などの指導をする場合、授業時数には含まれないとあるが、これはどう読めばいいのか。

【委員】 学級活動の時間は年間35時間になっているが、給食やお昼の時間にこういう指導をしても、この学級活動の時間としてカウントはされないということだ。

【委員】 武蔵野市ではセカンドスクールがあって、小学校では農業体験をしていると思うが、中学校ではどうなっているのか。

【委員】 6校とも田植えや稲刈りの体験をしている。農家に何泊か宿泊し、例えば無農薬の中身の詰まったトマトをもいで食べたり、農家の庭で焚き火を起こして湯を沸かし、そこで茹でたトウモロコシを食べるなど、そういった活動をどこの中学校でもやっている。

【委員】 それは総合的な学習の時間という位置づけなのか、それとも違う位置づけなのか。

【委員】 全部が総合的な学習の時間ではないと思う。いろいろな体験があるが、学校で「こうしなさい」というのではなく、そこから子どもたちが総合的な学習の時間の課題を見つけてくることになる。かなりの割合で食物や、動物などを調べるようだが、中には、それに関連して歴史や地理に注目する生徒もいるし、場合によってはブルーベリーのジャムを一切添加物を入れないで作るという体験から、添加物のことを課題に取り上げて、自分で調べる子もいる。生徒が自ら設計する課題なので、多くがそういうものに注目しながらやっている。

【委員】 給食実施にともない15分遅くなるという話は、給食以外で15分短縮する必要があるということなのか、下校時刻が15分遅くなるということなのか。

【委員】 家庭によって価値観が違うので、その15分をどうするかは一概に言えない。今でも遅いという家庭もあるし、もっと遅くてもいいという家庭もある。給食が始まったら、15分遅く終わればいいというものではないと思っている。

【委員】 学校の生徒数が減少しているのに先生は忙しくなっていると聞く。先生が忙しくなっている理由は何か。

【委員】 理由はたくさんあるが一番大きな理由は、中学校の先生は一週間に最大24時間までと持ち時数が決まっており、週に28時間授業があるうち24時間まで授業が入ってくる。大規模校では、例えば20時間の授業があっても1年生だけの授業で済むことがある。国語は週5時間なので、4クラスの国語の授業を週5回持っても教材の準備は1週間に5パターンで済んだ。しかし、生徒の数が減って小規模校化しているので、1人の先生が複数の学年を担当するケースがたくさんある。すると、同じ20時間でも別の授業準備が必要になってくる。それに選択教科があったり、総合的な学習の時間も入ってくる。同じ20時間の授業時数でも、授業に準備しなければいけない内容が非常に多様化しているということがある。

【委員長】 中学校の給食のあり方について議論をする上で、中学生がおかれている食の状況というの大きな要素と思う。改めて中学生の栄養面での問題点について、栄養学専門の委員に意見を聞いておきたい。

【委員】 アメリカの例だが、10代や20代の初めといった若さで死んでしまう子どもたちの7、8割に動脈硬化や糖尿病といった症例がある。その一番の問題は、栄養バランスのとれてない食事にあると考えられている。

今、日本の栄養調査を見ると、まずカルシウムが不足している。カルシウムは、たくさ

んとればいいという問題ではなくて、例えばカルシウムとリンの比率とか、カルシウムとマグネシウムの比率といったことが重要で、カルシウム剤を飲めばそのまま吸収されるという単純なものではなく、バランスのとれたきちんとした食事からとるべきだとされている。

食物繊維が不足しているという問題もある。先進国はどこも食育を実施しており、どういうふうに食べたらいいかという食事のバランスガイドというのを各国とも持っている。日本だとコマの形をしているが、どこの国でも食物繊維質をとることが基本になっている。例えば精白していない穀類や野菜がいい。そのことを考えると、昔の日本の食事というのはすばらしく、例えば麦が入っていたり、おかずに煮物などが並んでいた。今は本当に彩りもよくきれいだが、繊維質の摂取量が非常に少ない。家庭で朝と夜に十分とることができれば別だが、実際にはそうではないし動物性食品が多い。

また、一度も食べたことのないおかずは料理の本だけを見てつくることは難しいし、作ろうと思わない。食べたことがあれば、こんな感じかと考えることが出来るし、また食べてみたいと思う。そういうのが食育ではないかと思う。

もう1つ大きな問題として子どものダイエットがある。小学生、中学生、高校生の特に女性のダイエットが大きな問題で、ダイエットの開始年齢が若ければ若いほど、回数が多ければ多いほど骨粗しょう症になる。

骨量というのは、10代、20代に骨の中にカルシウムをとるのがいいと言われている。この時期にダイエットをするのは、とんでもないと言わざるを得ない。

【委員】 今の話を聞くと、日本の家庭での食の足りなさというのが、少なくとも改善されていない。2000年に「健康日本21」という計画が発表され、5年経過してどのような状況になっているかという調査が出たが、実はほとんどよくなっていない。これから社会で活躍してもらおう子たちには、カルシウムを摂取する土台づくりが必要という話は大事だ。

【委員長】 今日の中心テーマは、学校での管理や運営になるので、基本的なことを知っておきたい。給食が調理場から学校に運ばれ、配膳される段取りを簡単に説明していただきたい。

小学校における配膳について事務局説明

【委員】 コンテナを各階に持っていくのは、手で持っていくのか。

【事務局】 小型の荷物用エレベーターで上げ下げしている。

中学校では、それを使って牛乳を上げ下げしているので、給食でも使うようになると思う。

【委員】 各中学校にはコンテナを上げ下げする設備があるということか。

【事務局】 エレベーターはあるが、小学校では各校に2基あるところ、中学校では1基しかない学校もある。実際にやるとなれば、増設等の検討も必要になるかもしれない。

【委員】 ダイエットをしていない子でも、食事は子どもによって個性があると思う。食の細かい子もいるし、食べるペースが遅い子もいる。もちろん好き嫌いもある。ゆっくり食べる子が先生に「食べ終わるまでは遊んではいけません」と言われて、不登校になってしまった例もある。いろいろな個性のある子たちに対応することが必要であり、それを1人の担任が全部やる、食育についても指導するということになれば、それも大変なことになるということを理解いただきたい。

食育はやらなくていいというのではないが、給食の実施にあたり、自我ができてどんどん個性が強くなっていく時期なので、それを大事にしながら対応していくというところに配慮いただけるとありがたい。

【委員】 今、弁当の時間は、先生方は生徒と一緒に食べるのか。

【委員】 教室で一緒に食べている。

【委員】 先生も弁当を持ってきているのか。

【委員】 弁当とは限らない。近所の店から出前をとっている先生もいる。

【委員】 食に関してはどんどん危機的な方向になっているという認識はみんな一緒だと思う。そういう危機に面しているから、解決するために家庭に向かうのか、学校に向かうのかが問題だと思う。

学校に向かうのであれば給食に行きつくし、もし家庭に向かうのであれば、例えば国民運動的な、あるいは市民運動的な形で、もっと食に関して家庭全体で関心を持って食育をしましょうという運動にしていくことだと思う。

この検討委員会の流れとしては、家庭に対する食育への期待が難しいということで、給食の方に来ている。ただ、それでいいのか。例えば、子どもたちが朝食をとらないからといって、保育園で朝食を出すようなところまであるという話を聞く。このままいくと、すべてを家庭以外のところに託すことになってしまうだろう。

だから、今回給食をやりましょうということはそれはそれでいいが、同時に家庭においても食育を行う、そういった市民運動的なことを促す政策と両立した形で給食を考えていかないと、家庭がだめだから学校でと、どんどん家庭から離れてしまっていく。検討委員会は、給食をこういう形にしますというのと同時に、家庭における何らかの指針を考えていこうというような意見も付帯すればいいかと思う。

【委員長】 小学校の給食で、家庭に対する働きかけとして具体的に行っていることがあれば伺いたい。

【事務局】 食育基本法でも食育の基本は家庭と位置づけている。そこに給食をとおしてどう働きかけられるかは、大きな課題になっている。今、定期的に行っていることは献立表や給食だよりを通じての情報提供が主だが、もっと何かできないかというアイデアを考えていきたいと思っている。

【委員】 武蔵野市に転任してきた先生が、武蔵野市は弁当なのでとてもいいと言っていた。その理由の中に、準備の時間がなくて昼の時間がとても有効に使えるということと、給食に関するいじめがない、そういう心配がないのがとてもいいという話があり、とても印象深く思った。

個人的には給食でも弁当でもという思いだが、学校側の具体的課題はいろいろあるだろうと思っている。それから先ほど、食べられない生徒に対しての指導の話聞いたが、武蔵野市の小学校給食では、絶対食べなくてははいけませんというような指導はなかったと記憶をしている。食べられないからといって遊びに行つてはいけないというようなことは、少なくとも私の周りにはなかったと記憶している。

食事について子どもに個性があるということに対しては、同じ種類のものを一緒に食べることのメリットもあると思う。食べたことのないもの、経験のないものはつukれない、つくろうとは思わないという話があったが、やはり小学校、中学校時代にいろいろな食べ物を食べる機会や経験を持つことが大切だと思う。家庭の中ではどうしてもバラエティに富んだ食事というものは難しくなってくる。バラエティに富んだ食材を使った給食ということでは、武蔵野市に関してはすばらしいと感心しており、給食のメリットだと思う。

それから、一般市民に向けて食育をアピールする必要は私もあると思う。

【委員】 食育の推進ということについて、先ほどいただいた資料にあった人権、安全、環境、マナーということは、こういった配慮が必要なんだということを改めて感じた。

アンケートの中には、学校給食で嫌いなものが食べられるようになったという給食のメリットもたくさん書かれているが、一方で好き嫌いの問題や食べるのが速い子、遅い子などがあり、その指導もあるし食事は楽しく食べさせたいという願いもある。それに、「いただきます」と「ごちそうさま」は一緒にないととも思う。そうした学校でのさまざまな指導の問題ということもあるが、それによって準備、片付けなどで、今までより15分時間が延びてしまうという問題がある。この点について、それに付随する点も含めて具体的にどういふことがあるのかももう少し話をしてもいいのではないか。

【委員】 中学校では、委員会活動や行事の実行委員会が盛んに昼休みを利用して行われている。弁当はサッと開け、サッと食べ終わるのがメリットだと思う。それと同じような役割を果たすのはランチルームで、そこに集まって同時に食べられるといい。

【委員】 時間ばかりを優先するわけにもいかない。一番大事なものは、やはり食育、栄養バランスということではないか。

【委員】 大人の世界では会議があるとき、食事をとりながら会議をすることがある。また、楽しく食事をするのが大事だと思うので、食事をしながらコミュニケーションをとることも意味があるのかと思う。例えば昼休みの委員会に関しては、会議室で食事をしながら委員会をするようなことも考えられるのではないか。

【委員】 学校での食育指導の実際は、一人離れて食事をしている生徒がいないかといった配慮だと思うが、正しい食事作法で食べているかとか、感謝の気持ちを持ってあいさつをしているかとか、楽しく食事をしているかといった指導がされているか知りたい。

また、先生が生徒に向かって給食の時間に話すことがあれば伺いたい。

【委員】 現実にはそんなにクラス全員ゆっくり目を配るということはできないというのが正直なところだ。

例えば4時間目の終わりが5分でも遅れてしまったり、体育だったりすると、弁当もばらばらになる。男子と女子が分かれていて、あちこちから帰ってくるので、もう食べるので精一杯、「速く食べなさい」という指導しかできない。一斉にというのが原則だが、その原則が崩れる場面はいっぱいある。その中で教師も食事をするので、ゆっくり回って一人一人の食事具合とか、どれだけ食べているか、残しているかというのもなかなか見ることは難しい。また、じろじろ見るわけにもいかない。

担任によっては、順番に班をつくってそこを回ったりはするが、それができないこともあるし、学級経営の仕方によって少し変わってくる。子どもの中には、ぱっと食べて早く遊びに行きたいという気持ちを抑えている子もいるし、ときには家庭から「弁当をほとんど食べてないが何かあったか」と連絡を受けて初めて気づくことなどもある。

【委員長】 子どもたちの大体の時間のペースというのは、どれぐらい把握できるのか。初めは食べるのが遅くても、子どもたちは大体時間内で合わせてくるとか、そういうようなことはあるのか。

【委員】 基本的には全員一緒に食べさせたいという気持ちがある。ゆっくり食べる生徒もいるので、食べるのが速い生徒には人の食べ終わるのを待ちなさいという指導をしている。

ただ、一斉に食べることに慣れるということもある。食べ物を一緒に食べられるというのは、徐々に和ができてくると、速く食べられるようになる。小学校では給食で、中学生になって弁当になった一年生は時間がかかるが、12月頃になるとずいぶん早くなる。

【委員長】 小学校で給食を食べているので、中学校でも食べる時間とか、食べ方とか、

そういうのはある程度連携があってもいいのではないか。

【委員】 小学校のふれあい給食を何回か経験し、小学生と何回か食べたことがあるが、低学年でも高学年でも大体30分ぐらいの食事時間だった。一斉に「いただきます」をして食べるけれども、速い子はとにかく速く、おかわりをして30分。遅い子は、おかわりをせずにゆっくり食べて30分。全員の子を観察しているわけではないが、最後には何とか遅い子も食べ終えて、全員が片づけられるような感じだった。

そのときの先生の指導も、「絶対に、嫌いなものも食べなきゃだめよ」というようなことはなかったが、嫌いなものを一生懸命食べようとしているという印象を私は持った。多分、栄養士の工夫が生かされたおいしい給食だからで、食材を細かく切って混ぜ込んだりしてあり、嫌いなものも何となく食べてしまうような工夫がすごく大切だと思った。

【委員】 自校方式の小学校の栄養士に聞いた話だが、ランチルームを順番に毎日のように使用し、いろいろ食に関する話を子どもにしていると聞いた。そこでは校庭でとれたたけのこを使ってたけのこごはんを作ったり、夏ミカンでジャムを作ったりという、温かみが子どもたちに伝わって、食に対する関心が高まるのだと思った。

【委員】 弁当のときでも「いただきます」という形で昼食をしているということだったが、何時に始めて、何時に終わるといった時間は学校によって違うのか。

【事務局】 学校ごとに決めており、それぞれの詳しい時間は押さえていないが、大体12時25分ぐらいから始まって、12時50分ぐらいには終わっているのではないかと思う。

【委員】 小学校は45分授業なので、4時間目が終わるのが早いですが、中学校は50分なので少し遅くなる。

本校では弁当の時間が15分だが、1年生の保護者からは15分では短いという話も聞くが、3年生だと食べるのが速いので、どこに合わせるかは難しい。一緒に「ごちそうさま」はするが、その後食べてもいいことになっている。あくまで目安としての終わりの時間であって、その後は食べてはいけないというものではない。

【委員】 今、武蔵野の中学生の体力調査では、体力について筋力などがかなり心配な状況にある。この理由には、小学校と中学校の20分休みが関係しているかもしれない。中学校では午前中の休み時間を使って外に出ることも無いので、運動部の生徒以外は運動量が不足しがちといわれている。食生活のことを考えなければならないと同時に運動量を増やすことも課題となっている。食育に関しては保護者にお願いする面もあるかと思うが、子どもたちの体をみると体力も心配で、たくましく豊かに育ててほしいという教師の思いもある。

【委員】 今、学校に求められていることがすごく多い。学力向上が求められている中に

給食の配膳時間が入り、その影響がどうなのかということは大きいと思う。

【委員】 給食を実施することによって、食事の栄養バランスがとれることなどメリットとして考えられる点をとらえておかないと、給食をやろうということにはならないと思う。今の子どもや家庭の現状を見たとき、その必要性があるならば、給食によって15分とられることもやむを得ないと思う。その価値をちゃんと考えて、必要以上の負担を避けることを考えるべきだと思う。さすが、武蔵野市だと言われるような何か方法が考えられれば良いと思う。

【委員】 食育リーダーというのはどのようなものか。また、学校の安全ということが言われている中で、学校現場にボランティアなど外部の人が入ることに問題は無いのか。

【委員】 今の学校には、いろいろな人が関わっているので、それは問題ない。

【委員】 食育リーダーのイメージがわからないのだが、例えばボランティアの人に関わってもらったとしたら、その人たちが指導するために、栄養教諭みたいな資格がないとダメなのか、それとも資格がなくてもいいのか、武蔵野市として独自に考えていけるものなのかということを考えてい。

【委員】 中学校は教科担任制なので、例えば家庭科の先生はできるかもしれないけれども、国語の先生にはちょっと難しいということもあるのではないか。東京都は今のところ栄養教諭を配置していないので、給食をやるのであれば、栄養士に中心になってもらわないと進まないと思う。食育について、全体計画みたいなものをきちんとつくり、その中で、食育リーダーというものがどういう立場で何をするのか、それをきちんと規定していく必要があると思う。

地域の方の教育力を活用していくのも手だと思うが、学校の教育課程をきちんと理解してやっていかなければいけないので、誰でもいいというものではないと思う。どういう資格の方ということまでは考えてないが、専門知識のある人がいないと、食育はなかなか進んでいかないと思う。

【委員】 栄養関係の仕事をしている人はいろいろいるので、声をかければ来てくれる人もいると思う。それは、毎日必要ということでもないもので、いろいろ検討できると思う。それと、昔は栄養をとることが大変な時代で、栄養士が習う栄養学は足し算の栄養学だったが、食が豊かになった今は、引き算の栄養学になっているということも大きなポイントで、栄養をとるだけでなく運動をプラスしていく必要があり、そのバランスが大切だと思う。

【委員】 家に帰って運動をすることも少ないし塾のある生徒も多く、昼休みというのは子どもたちにとって体を動かして遊ぶ重要な時間でもあると思う。

【委員長】 食育も体育も大事だが、勉強も大切にしたい。これをどうやってバランスをとるか考えなくてはいけないのではないか。これは保護者にも言わなくてはいけない。先生にも言わなくてはいけない。それから、子どもたちもしっかりしろという教育をみんなが本当はやらなくてはいけない。家庭のあり方、役割というものもやはりきちっと位置づけて、やはり我々も家庭に言うべきことは言わなければいけない。そうでなければ、どう考えてもバランスがとれない。学校の先生方が大変だということも考える必要がある。

議題2 その他

今回は1月15日、月曜日、午後6時30分から市役所教育委員会室で開催することを確認した。

第7回検討委員会は、平成19年2月15日（木）、午後6時30分からと決定した。

(閉会)